

誰が、どのクラスでも、担任が出来るように

---

～こぐま保育園 リニューアル プロジェクト～

---

園名

氏名

こぐま保育園

主任保育士 山下 由美子

---

10年ひと昔という文言通り、創立10周年を迎えると、新築の園であっても修理修繕の必要な個所が目立ってきます。それ以上に、日常保育の在り方にも、リニューアルを迫られる時期でもあります。少子化傾向は止まることなく、「不適切保育」について厳しい指弾を受ける園がマスコミを賑わせています。そんな中、「保育の質」を担保するためにどうすれば良いのかという問題意識で、本園の保育を基礎・基本から見直すと共に、保育に立ち向かう活動指針となる心構えを取りまとめました。“4S”とは「以唇伝心」、黙っていても思いや考えは繋がらない。誉める、慰める、励ます、時には注意する～声を掛け合い、笑顔になってこそ職員間の絆が結ばれ、「保育の質」が高まるのではないのでしょうか。2年目主任の着眼点で職員一同が取り組んできた歩みです。

# 誰が、どのクラスでも、担任が出来るように

こぐま・リニューアル・プロジェクト リーダー 山下由美子

はじめに

こぐま保育園は平成26年4月1日に開園、創立10周年を迎えます。当園は梅屋学区の西南部にあり、北は丸太町通、南は二条通、東は室町通、西は堀川通に囲まれています。北は上京区に隣接し、東西は、ほぼ中京区の真ん中に位置します。梅屋の由来は、関白秀吉が愛でた梅屋敷の跡地に小学校が建てられたため「梅屋」と呼ばれるようになったとのこと。園の北から東は、京都第2赤十字病院・京都府庁・京都府警本部・京都御苑、西には二条城等、京都を代表する公共施設・病院・歴史的建造物等が並んでいます。園の近隣に、今なお染織に関する業務に従事するご家庭が多い地域です。今年度で創立10周年を迎え、現在、定員90名の園児と26名の職員で日々の保育に取り組んでいます。

## 1. 「明日も行きたくなる保育園」の創造

当プロジェクトのリーダーを務めることになった私自身は、幼稚園での勤務を経た後、本園に開園当初から着任し、10年目を迎えます。諸先輩の主任としての取組を見ていたつもりでも、いざ自分が主任を拝命すると、見ていたはずなのに戸惑うことがしばしばありました。同時に、試行錯誤で取り組んできた創立以来10年間の保育を見直す視点が芽生えてきました。先ず手始めに着手したのが、日々の動線をもっと効率的に出来るのではないかと思い、事務室の整理棚、教材教具棚の新旧備品・消耗品等の差し替え等を断行しました。次に、保育関連文書の様式見直しです。記述内容・表記方法を簡潔にすると、記入時間が短縮出来、読み取りも的確になるのではないかと思ったからです。

そこで、「誰が、どのクラスでも、担任できるように」という観点で、日々の保育の中で改善すべきことをA4版1枚にまとめ、年度当初の職員会議で提案しました。教材教具の整理や保育関連文書の更新等は、導線の無駄を省き、文書作成に割く時間の短縮に効果があると考えたのですが、何故そんなことをしたのかという趣旨を徹底しないと、「(私がしなくとも)誰かが片付けてくれるだろう」、「簡単に何か書いとけばいい」という乱暴な取り扱いで、職場風紀が乱れるし、協働力が損なわれると危惧するからです。

個人記録の書き方や製作について「あるべき姿」を例示しましたが、何よりも強調したのは、①「こぐま保育園の職員としての自覚をもって、保護者・子どもに接してほしいこと。②「(自分自身の他者に対する)態度や、言葉遣いを振り返って、仕事であること、プロ意識を忘れずに取り組んでほしいこと」、③「職員みんなが好きな職場になるために」の3点です。感極まって熱い思いで、この1年、主任として気になったこと、改めて

ほしいこと、今後の行動指針を訴えました。すると、職員一同から賛同を得ることができました。そこで、どうせやるなら、園外行事計画・行事日案・従来の年間計画の書式にとどまらず、取組自体のねらいや活動内容、留意点等もリニューアルしてはどうかと思い立ち、「こぐま保育園リニューアルプラン」として具体化していこうと決意した次第です。

もう一点、私が冒頭の主題でリニューアルしなければならないと考えたのは、現在の保育士の職員構成です。正規雇用保育士12名の内、採用1年目1名・2年目2名・3年目3名4年目1名・5年目以上5名、平均年齢30代前半、当然平均勤続年数も浅いのです。非常勤保育士の平均年齢は正規雇用保育士より年長の方が多いのですが、保育士としての経験年数はそれほど長くないのです。そのような職員構成ですから、「誰が、どのクラスでも、担任ができるように」というのは当園の切実な課題であり、日々の保育の行動指針を簡潔に「見える化」しなければ、質の高い保育には程遠いと危惧したからです。

経験年数が短くとも、「見える化」できる行動指針が定着すれば、コミュニケーション能力の向上を図ることが出来るし、お互いの気持ちや感情を理解・尊重し合いながら、適切なタイミングや表現方法で自分の感情や意思を伝えたり、他者を受け入れたりして、信頼関係を築けるだろうと考えました。職員個々が自力解決の意思を固め、みんなで集団解決を目指そうという思いが繋がれば、日々教え合い、励まし合う姿が「見える化」できます。その様な職員間の明るく元気な姿が、子どもたちに、保護者に、そして職員自身も「明日も行きたくなる保育園」の創造につながると信じています。

園長は、「一人で出来ないことも、みんなと一緒になら出来る。みんなと一緒に出来ることなら、一人でも出来るかもしれない」。井上ひさし氏の「難しいことを 易しく。易しいことを 深く。深いことを 面白く」との文言も引用して、「あきず・あせらず・あきらめず」やってみようよと私の背中を押してくれました。

## 2. 「不適切な保育」へのスタンス

本園独自の問題解決に取り組もうと決意した時期と軌を一にして、令和になって相次いで発覚した「不適切な保育」に対する世論の高まりを受け、監督官庁、及び保育関係団体から下記6本の指示書、参考文書が発出されました。順次、園長自身を読み取り、要旨を伝達研修されるのですが、保育現場での具体的な方策や行動指針ではなく、基本的な方向性を示す記述や各種審議会の経緯や法的根拠等を示唆する記述が多く、具体化は各園で検討し、実情に即して具体策を練り上げよとの趣旨だと思うが、限られた職員数で日々の保育で多忙な現場では具体案策定は難しいとのこと。

確かに、全国各地の保育所において虐待等が行われていたという事案が相次ぎ、令和4年12月には国において改めて虐待等への対応について周知を図ると共に、全国的な実

態調査が実施され、不適切保育 914 件、うち虐待が 90 件との報告があったとのこと。その結果、明らかになったのは不適切保育の深刻さに温度差があり、都道府県によって「不適切な保育」の認識が異なり、報告事案の件数がマチマチで、「不適切な保育」の取扱いを改めて明確にせねばという問題点。そのような経緯もあってか、「不適切な保育」が「虐待等と疑われる事案」と名称変更になったと読み取れるので、この機会に本園でも「不適切な保育」をとらえ直し、行動指針の「見える化」に位置づけました。

つまり、子どもを見つめる眼差しの切り替えです。この子は「困った子」ではなく、「困っている子」だなどという視点での捉え直しです。実際あってはならぬ事例ですが、ある子どもに「望ましくない」関りをしていたと気づいた時には、初発に気づいた者が反省し、その子が何に「困り」を感じ、どの様に支援すればよいのかと悩みを発信し、受け止めた職員が共に、知恵を絞るよう努めるのです。「困り」のある子とその保護者を孤立させてはいけませんから。

このような「子どもを見つめる眼差しの切り替え」は、児童発達支援事業所の療育で実践されている課題のある子どもたちに対する固有感覚・前庭感覚等、子どもの特性に応じた働きかけの事例を園長から学んでいたからです。静岡県裾野市の保育園での保育士による園児への暴行事案は、衝撃的にマスコミ等で喧伝されました。それを受けての初発の感想は、まさか「困り」のある子がターゲットになったのでは～との危惧です。

何故なら、保育士の配置基準に余裕のない保育園では「保育士の専門性は正当に評価されているのか」という声を発することも出来ず、ワンオペ状態で子どもたちを見なければならぬ現実があるからです。自分がトイレにも行けない中、同時多発的にケンカやお漏らしする子。その様な多忙な日々で余裕を失い、子どもへのいら立ちや怒りが心をよぎるという経験は、どの保育園でもあるかもしれません。そんな懸念を払拭して、「不適切な保育」に陥らないためにも、「困り」のある子を焦点化し、どの子の課題も見落とすことなく、どの子にも届く保育の在り方を追究しようというのが「不適切な保育」を回避するための私たちの行動指針です。

### 3. 「やはり、そうだったのか」、「まさか、そんなことが」という新たな問題提起

監督官庁や保育関係諸団体から発出された文書とは別途、驚くべき問題提起が専門家から発出されました。「コロナ禍による発達の遅れ」と、「幼児教育無償化後の問題点」という専門家からの指摘です。

今年 6 月末に、京都大学等の研究グループが、「新型コロナウイルス禍を経験した令和 2 年度と 3 年度の年長クラス（5 歳児）の保育園児は、コロナ禍を経験しなかった園児と比べ、社会性や言語理解などの発達が平均 4 か月遅れていた」とする調査結果を発

表しました。家族や保育士以外と交流する機会が減ったことが影響したとみられるとのこと。5歳時点で平均4.39か月の遅れ、項目別では、大人とのコミュニケーション能力が6.41か月、主体的に言葉話す力が5.64か月と目立って遅れていたとのこと。コロナ禍を経験した園児の方が発達のばらつきが多かったとも指摘されています。「やはりそうだったのか」と驚きながらも、「今後の支援で挽回可能な範囲」との追記がありましたが、取り急ぎ「今後の支援」とはどんな働きかけなのか、当園での「行動指針」を明らかにしなければなりません。

次は、更に驚くべき指摘です。今般、教育書として珍しくベストセラーとなった「学力の経済学」の著者である中村牧子氏（慶応大学教授）からの「質の高い保育の保障」という問題提起です。即ち、日本で幼児教育・保育の無償化が始まった2019年から遡ること22年前。1997年にカナダのケベック州で保育所利用料が大幅に引き下げられた結果、保育所の利用者が増加し、就労する母親も増加。そのことで子どもへの影響はどうなったのか？という検証です。最新の研究によれば、利用料引き下げによる保育所利用の増加は、子どもらが10～20代になった後の非認知能力、健康、犯罪関与などに負の影響があったとのこと。特に男子に攻撃性や多動の問題が顕著だったとか。「まさかそんなことが〜」と冷水を浴びせられた感じ。今後の研究が待たれるとのことですが、有力な仮説の一つが「保育所増加に伴う保育の質の低下」だとのこと。

私たちには、カナダの事例が日本にも当てはまるのかどうかを判別する力はありませんが、幼児教育・保育の無償化が親の就労を増やすことには成功したとしても、後々、子どもの教育に悪影響があるとなると～大変です。小1プロブレムの解消、中1ギャップの緩和どころではない大問題。既に、幼児教育・保育の無償化に突入している現在、近い将来に実証されるであろう「質の高い保育」に効果のある「行動指針」とは何なのか？ 専門家の指摘に的確な対応策を打ち出せませんが、見過ごすことは出来ません。

そこで、私たちは、“4S”（Short, Simple, Speed, Sensitive）という行動指針を策定しました。

#### 4. “4S”（Short, Simple, Speed, Sensitive）策定のポイント

- (1) Short ; Communicate in short sentence with a smile. 週一度、全クラスで英会話の指導に来ていただいているネイティブスピーカー；ハリー先生のコピーです。  
「今ので良かったよ」「〇〇に変えたら」等、ピンポイントでショートメッセージ。  
出来れば速攻で、笑顔と共に発信すると聞き手にストレートに伝わります。
- (2) Simple ; 行事案等はスケルトン、イラスト表示が、一目瞭然が文章表現より明解。  
子どもに関する記述は、①どんな場面で子どもの『困り』が生じたのか。②どんな

働きかけで『困り』が和らいだのか。③（スイス・チーズ・モデルの例示通り）、職員がそこにいる（はず）、鍵が締まっている（はず）、〇〇は片づけてある（はず）…しかし、そんなはずではなかった！ハッとして気づいたことは速攻で発信。受信したら即返信。“Short”、“Simple”共に速攻で双方向通信だからこそ効果が上がり、コミュニケーション能力が高まるからです。

- (3) **Speed** ; 保育士としての経験値と能力は個人差があります。だからこそ、経験知や能力よりも職務に対する熱意が肝要です。熱意は、子どもを見つめる眼差しから醸成されます。この子の「困り」を和らげたい、この子の「出来る」を増やしたい。保護者の「困り」にも寄り添いたい。出来れば、経済格差が体験格差にならないように、園での活動や行事を豊かなものにして、子どもたちの潜在能力を目いっぱい掘り起こしたいという思いが生まれたら、気付いたこと、気になることは速攻で「以唇伝心」しようとして共通理解・共通行動に基づく行動指針です。

- (4) **Sensitive** ; 信頼関係の醸成は加点評価。Z世代に減点評価は、やる気を無くす。

すぐ誉める、具体的に誉める、繰り返し誉める、思いっきり誉めることで人は変わります。減点評価の連発では育てることにはなりません。「どんな愚か者でも他人の短所を指摘できる。そして、大抵の愚か者が、それをやりたがる」～園長が隔週で書く掲示板の言葉です。「他人にイラっとしたら、自分は同じようなことを今まで一度もやってこなかったか」と自問しなさい～掲示板を見て、「これって私のことかしら」と足が止まります。子どもだけじゃなく、職員を見つめる眼差しも“Sensitive”なのです。

私たちの保育活動にはコミュニケーション能力が必要不可欠。職員の言語力は、「聞く力」に支えられ「話す力」が伸び、「書く力」がつくことで「読み取る力」も高まるのです。「聞く・話す・読む・書く」4点の力を耕すための動機づけ、行動指針が、“4S”であり、相互牽制の活性化にもなります。

## 5. 実践例

(1)運動会①：体育ローテーション「走る・跳ぶ・投げる」活動案と写真

(2)運動会②：跳び箱チャレンジ「13段目指して頑張るぞ！」活動案と写真

(3)週日案・保育日誌：5歳児「ひかり組」第30週：10月23日(月)～28日(土)

\*担任の手書きに園長が朱筆で即答の往復書簡、密なる双方向通信の積み重ね。

(4)花脊こども村・川遊び：職員のコマ割り活動案・写真

## 6. 参考文献

<参考> 監督官庁等からの指示書・参考文書

A: 令和5年5月 子ども家庭庁

保育所等における虐待等の防止及び発生時の対応等に関するガイドライン (25P)

B: 令和5年5月12日 子ども家庭庁

虐待等の未然防止に向けた保育現場の負担軽減と巡回支援の強化について (8P)

C: 令和5年5月 社会福祉法人全国社会福祉協議会 全国保育士会

「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を用いた保育の振り返り (21P)

D: 令和3年3月 厚生労働省

保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン (66P)

E: 令和2年3月 (株)キャンサーキャン

不適切な保育の未然防止及び発生時の対応についての手引き (56P)

F: 令和2年3月 厚生労働省

保育所における自己評価ガイドライン【改訂版】(42P)

結びに

子どもが頑張ったこと、良い行いを見つけた時は「直ぐ誉める・思い切り誉める・繰り返し誉める」ことが大事。そして、職員に対しては「結果よりも努力の過程を誉める」、「失敗した時も努力の過程は誉めることが大事」と園長は常に諭されます。逆に、「直ぐ怒る・思い切り怒る・しつこく怒り続けるのは絶対アカン!」とも。子どもの誉め方が上手な保育士は、子どもの認知能力だけではなく、非認知能力を育むことにも力があるからだそうです。実際、子どもだけでなく、職員間でも「直ぐ誉める～」は効果あります。

“4S”も簡単なようですが、慣れないと、原案の要旨を簡潔に“Short”して文章化出来ないし、“Simple”にイラスト化できないし、“Speed up”で配信できません。とりわけ、一番難しいのは“Sensitive”に双方向通信することです。子どもにも、保護者にも、職員にも、各々相手の意向に寄り添って、笑顔を交えて言葉を交わす～意識して心がけて続けると、少しずつ“4S”の効果が浸透していきます。今夏は秋になっても猛暑日が続いて汗だくでしたが、確かに「風通しの良い職場」になってきたかしらと感じています。

今や共働き世帯が1千万世帯を超え、男性が外で働き、専業主婦のいる世帯の倍以上。ひとり親世帯も130万世帯。少子化が加速度的に進む中、保育園を必要とする世帯の子どもは多様性にとんでいます。“4S”効果で、子ども・保護者・職員の三者の輪が密になり、話が弾み、和が保てると、その先には「保育の質が高まる」のではないかと思います。

実践例

(1)運動会①：体育ローテーション

プログラム 番号	7	競技名	体育ローテーション	クラス	そら組 ひかり組	競技担当	A・B
<p>テント⊗ 園児席</p> <p>立ち入り禁止</p> <p>入退場門</p> <p>保護者席(テントなし) ← 園児席への保護者 立ち入り禁止!!</p> <p>ラダーケンケン クッション棒</p> <p>逆上がり</p> <p>ボール投げ</p> <p>開脚前転 マット</p> <p>縄とび歩き</p> <p>マット</p> <p>バランス10秒</p> <p>出番のクラスの保護者優先席 (入れ替え制)</p> <p>来賓・本部 用具置き</p> <p>テント⊗</p> <p>テント⊗</p> <p>テント⊗</p> <p>テント無し</p> <p>梅屋広場入口</p>						準備物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マット × 8 (1, C 2, D 3, E 4, F, G 6, H 7, I 8, J)</li> <li>・鉄棒 × 2 ( B )</li> <li>・ラダー × 1 ( K )</li> <li>・クッション棒 × 4 ( K )</li> <li>・縄跳び × 6 ( L )</li> <li>・バランス黄緑 × 2 ( M )</li> <li>・フープ小 × 4 ( M )</li> <li>・跳び箱 新5段 ( N )</li> <li>・跳び箱 古7段 ( O )</li> <li>・ミニコーン × 6 ( L )</li> <li>・ボール × 2 ( H )</li> <li>・ロイター板 × 2 (1, Q 2, R)</li> <li>・跳び箱7段黄牛乳バック ( O )</li> </ul>
						待機状態	・グループに分かれて 入退場門に整列
						責任者	B
						B	入退場：笛 ( B )
						G	ローテーション中：
						M	
<p>・整列出来たら本部席に合図 ( B ) ・☆の位置に職員が付く</p> <p>・笛の合図で駆け足入場 ・各グループで決めていた種目のところに行く4列</p> <p>・終了の笛「ピッ」 ( B ) 園児席で退場 「ピー ピッ」ピッピッ</p> <p>※跳び箱とロイター版は片付けず、次の連続跳びの準備へ</p> <p>手押し車 ( D ) 鉄棒 ( B ) ラダー ( J ) ケンケン ( K ) ボール投げ ( H )</p> <p>バランス ( M ) マット ( S ) 縄跳び ( L ) 跳び箱 ( O ) 跳 ( N )</p>							





(2)運動会②：跳び箱チャレンジ

プログラム	8-2	競技名	跳び箱 (チャレンジ)	クラス	ひかり組	競技担当	A B
						準備物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・跳び箱 (古) 8段~11段</li> <li>【グラウンド内で移動】</li> <li>・跳び箱 7段 (O、N)</li> <li>・ロイター版 灰 (B)</li> <li>・マット×2 (M、T)</li> <li>・牛乳パック黄 (U)</li> <li>・マイク (A)</li> </ul>
						待機状態	園児席側のミニコーン前に移動し、跳ぶ順に並んで座る。
						責任者	A
						B	「世界のつづき」
						G	退場：笛
						M	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子「OOOO (名前) です。△段跳びます！」</li> <li>・藤本「これで跳び箱チャレンジを終わります」 子「ありがとうございました」</li> <li>・笛 (A) の合図で園児席へ退場</li> <li>・・・・マイク (藤本)</li> </ul>							





(5)花脊子ども村・川遊び：職員のコマ割り活動案・写真

令和5年度 4・5歳児 お泊り保育 in 花脊子ども村 (活動案) 令和5年7月21日(金)～22日(土)		A	B	C	D	E	G	T	O
		4歳担任	4歳補助	5歳担任	5歳補助	主任	栄養士	運転手	園長
1日目	職員：準備物積み込み	準備物を園バス・乗用車に搬送			園バス運転		乗用車運転		
9:00	園児 集合(園児健康チェック)	園バス：運転(T)・担任(A)・C			乗用車：運転(E)・B・O		園との業務連絡(O)		
9:15	園 出発	副担任(B)・D → 乗車園児の健康観察・乗り物酔いケア・車中指導等							
11:00	現地 到着	担任：ホール移動、排湿、荷物整理指示			トイレの設備確認		電気・ガス等の開栓		
11:15	園児：荷物整理・排湿				トイレの設備確認		洗面・流水・落石等、危険箇所確認		
11:30	オリエンテーション	司会：E スタッフ紹介・館内説明			担任補助		お茶配膳		
		園長：野外活動注意(川の流れ・ヒル・蜂等)							
12:00	昼食(家庭から持参した)	園児とともに昼食							
		昼食片付け・籠準備							
12:30	川遊び準備 着替え	C・A：ライフジャケット 装着指示・安全ベルト確認			靴・袋・食器の洗浄		谷垣：ボート・浮き輪確認、川へ搬送		
		大橋・高橋：装束、安全ベルト確認補助			川遊び後シャワー		園長：宿舎から川への道路に通行安全ロープ設置		
		広瀬(救急薬品・ヘルメット確認配膳)			川遊び後シャワー		園長：オープニング・ゲーム指導		
		園児写真カメラ用意：D			川遊び後シャワー		園長：オープニング・ゲーム指導		
13:30	川遊び準備 着替え	職員役割分担指示 A 上流指導・監視 C ボート・浮き輪の手渡し B E 中流ライフガード カメラ撮影：D 中流指導・監視 A 下流ライフガード：T 最下流ライフガード・救急セット：園長			川遊び後シャワー		園長：オープニング・ゲーム指導		
14:30	川遊び終了	女児入浴指導：B・C 男児入浴指導：A・D			川遊び後シャワー		園長：オープニング・ゲーム指導		
15:30	シャワー 着替え・荷物整理	スイカ割り・おやつ配膳準備：廣瀬			川遊び後シャワー		園長：オープニング・ゲーム指導		
17:00	おやつタイム 全体指導：C	おやつ配膳～片付け ゲーム終了後 荷物整理・入浴準備・寝具セット準備			おやつ配膳・片付け		天気予報確認		
17:30	ホールでゲーム 全体指導：A	入浴 先発：女子 後発：男子			お茶仕込み		キャンプルソービス・等準備		
19:00	夕食(カレー・サラダ・果物ゼリー) お茶(ジュース)	全体指導：E 配膳・片付け：T・D・C			お茶の補給				
20:00	キャンプファイヤー 晴天なら外で(雨天ホール)	アレルギー確認(健康調査票チェック)			水筒の洗浄				
21:00	キャンプファイヤー 全体指導・進行：A	火床・花火・防火バケツ準備 A			お茶の補給				
21:30	キャンプファイヤー 全体指導・進行：A	虫よけスプレー・ムヒ等準備 D			お茶の補給				
22:00	キャンプファイヤー 全体指導・進行：A	ファイヤー・花火の火の用心・後始末：園長			お茶の補給				
	就寝準備 全体指導：Y	【服装】パジャマ オムツ確認			園児のセット指示・園児荷物荷造り確認		園児トイレ・風呂掃除		
		寝具のセット・歯磨き・排湿			落し物・忘れ物点検・健康観察				
		翌朝の服装準備・荷造り			*オムツの必要な子の確認				
	消灯・就寝	<健康状態確認>			交代で入浴・休養		園児乾燥の様子見回り		
	職員ミーティング	通院を要する場合			必要最低限の反省と2日目の活動打ち合わせ				
	職員消灯・就寝	の早期把握と決断			職員も早寝・早起き				

